

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

青山通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」と歩いてきました。

2023年（令和5年）の初歩きは「青山通り」です。青山通りは千代田区永田町の三宅坂交差点を起点に、港区赤坂・青山を経て渋谷区渋谷駅前に至る延長約5kmの道です。写真右上は青山通り起点の道路名標識（国道246号線）です。国道246号線は東京都千代田区、港区、渋谷区、目黒区、世田谷区から神奈川県中央地域を通り、静岡県沼津市に至る道です。都内での渋谷駅までは青山通り、その先から多摩川二子橋までは玉川通りの通称で呼ばれています。青山通りの名は江戸幕府町奉行 青山忠成の屋敷があったことに由来します。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時の写真もあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[三宅坂交差点] 千代田区永田町一丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 永田町駅

三宅坂交差点（写真下左）は最高裁判所先の内堀通り（国道20号線）との交差点にあり、青山通り（国道246号線）の起点です。三宅坂の名は江戸時代、この坂の途中に三河国 田原藩（現在の愛知県田原市）三宅家の上屋敷（現在の国立劇場付近）があったことに由来します。

また戦前・戦中は「三宅坂」と言えば参謀本部の代名詞でした。参謀本部は1941年（昭和16年）市ヶ谷へ移転しました。交差点右角（後ろは最高裁判所）の三宅坂小公園（写真下右）に「渡辺崋山誕生地」の説明板がありました。渡辺崋山（1793～1841）は田原藩上屋敷で生まれ、江戸後期の政治家として藩政改革や海防政策に業績を残す一方で、画家としても先駆的な功績を遺しました。画風は西洋画法を取り入れた肖像画や花鳥画、風景画のスケッチなどを得意としました。幕府の対外政策を批判したため、蛮社の獄で捕縛され、国許の田原での蟄居を命じられます。その2年後、48歳で自決し、生涯を閉じました。



[平河町交差点] 千代田区平河町二丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 永田町駅

通りの起点から終点に向かって歩く場合は進行方向の上に経路案内標識がある左側を歩き、見所が右側にある場合は右側に渡ります。平河町交差点（写真下左）で右に渡りました。「赤プリ」の愛称で親しまれた赤坂プリンスホテル跡地は2016年（平成28年）「東京ガーデンテラス紀尾井町」（写真下右）に生まれ変わっています。



[江戸城外堀跡 赤坂御門跡] 千代田区紀尾井町

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 永田町駅

右側に史跡がありました。説明板によると写真下左の石垣は、江戸城外郭門のひとつである赤坂御門の一部で、この周辺は「江戸城外堀跡」として国の史跡に指定されています。江戸城の門は、敵の侵入を発見する施設であるため「見附」と呼ばれ、ふたつの門が直角に配置された「枡形門」の形式です。



「赤坂御門」(写真下)は1636年(寛永13年)筑前福岡藩主 黒田忠之により、この枡形石垣が造られ、1639年(寛永16年)には御門普請奉行の加藤正直・小川安則によって門が完成しました。江戸時代、この門は現在の神奈川県の大山に参拝する大山道の重要な地点でもありました。明治時代以降、門は撤廃され、その石垣も大部分が撤去されましたが、1991年(平成3年)の地下鉄南北線建設工事に伴う発掘調査によって地中の石垣が発見されました。現在、右手の石垣の下には、発掘調査によって発見された石垣が現状保存されています。

写真下右は説明板に掲載の明治初期の赤坂御門です。



[赤坂見附交差点] 港区元赤坂一丁目

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 赤坂見附駅

赤坂見附交差点(写真下左)で外堀通り(都道405号線)と交差します。左へ行くと赤坂方面、右へ行くと紀尾井町方面です。



[豊川稲荷東京別院] 港区元赤坂一丁目

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 赤坂見附駅

また青山通りを右に渡り、右側にある豊川稲荷東京別院に立ち寄ります。豊川稲荷別院は愛知県にある豊川稲荷の東京別院で豊川閣妙巖寺という曹洞宗の寺院です。名奉行大岡越前が日頃信仰していた屋敷内の豊川稲荷のご分霊も祀られています。写真下左は山門、写真下右は本殿です。



境内には幟が立ち並びにぎやかです。写真下左は奥の院、写真下右は融通稲荷です。寅次郎、面白そうなお稲荷さんなのでお参りしました。



脇に書かれた縁起によると「融通稲荷とは財宝を生む尊天様で、真心を込めて信心すると全銀財宝の融通が叶えられると言い伝えられています。大きな幸せが授かるようお願いを込めてお参りください。お受けになった融通金は一年後に礼金として奉納するのが習わしになっております。融通金は常に財布の中に入れて大切に祈念してください」と記載。豊川稲荷については寅さん歩 52 健康ご利益めぐりー14 港区および寅さん歩 103 江戸・東京の祭ー32 (江戸らしい祭ー15) 大岡まつりをご覧ください。

[赤坂警察署前交差点] 港区赤坂四丁目

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 赤坂見附駅

豊川稲荷を出て赤坂警察署交差点（写真下左）を渡り、青山通りの左を歩きます。左側には寄ってみたい「虎や赤坂店」とあまり寄りたくない「赤坂警察署」が道を挟んであります（写真下左）。青山通りの右側一帯は寄りたくとも寄れない「赤坂御用地」（写真下右）が青山一丁目交差点まで続きます。赤坂御用地は仙洞御所（上皇・上皇后御所）のほか各宮邸があります。



[高橋是清翁記念公園] 港区赤坂七丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 青山一丁目駅

青山通りに面した左側にある公園です。公園は日本の金融界における重鎮で大正から昭和初めにかけて首相、大蔵大臣、日本銀行総裁などをつとめた「高橋是清」（1854～1936）の邸宅があった場所です。1936年（昭和11年）2・26事件により、この地において83歳で世を去りました。1938年（昭和13年）高橋是清記念事業会が、この地を当時の東京市へ寄贈し、1941年（昭和16年）東京

市が公園として開園しました。その後、1975年（昭和50年）港区に移管されました。第二次大戦で建物は焼失しましたが、母屋は故人の眠る多磨霊園へ移築されていたため難を逃れ、現在は都立小金井公園にある「江戸東京たてもの園」へ移されています。戦時中撤去されていた翁の銅像（写真下左）も1955年（昭和30年）再建されました。国道246号線の拡幅で開園時よりやや面積は減りましたが、和風庭園（写真下右）もほぼ当時の姿で残されています。



高橋是清翁記念公園の隣に「カナダ大使館」（写真左）があります。港区の大使館めぐりで訪問したことがあります。寅さん歩86 江戸・東京の祭—15（新しい祭—29）をご覧ください。

今回はここまでとします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約600里（約2400km）の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川（現在の江東区深川）を出発、2023年1月4日鼠（ねず）の関の手前31kmの地点（江戸深川から1217km）に到着しました。八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈が掲載されています。

酒田に戻った芭蕉は7日間滞在し、鼠の関へ向かった。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝